

2 救急隊員の負担軽減について

令和2年12月議会 一般質問（令和2年12月4日（金））	
質問者：公明党 村上 直樹 議員	答弁者：消防局長

（第一質問）

2点目に、救急隊員の負担軽減についてですが、厚生労働省の「業務上疾病発生状況」によると、特定の仕事が原因で起こる病気や負傷などのうち、6割以上を占めているのが腰痛との事です。介護職の腰痛は、もはや職業病とまで言われるようになりましたが、本市では、既にマッスルスーツやスマートスーツと言ったアシストスーツを介護施設などで導入し、一定の効果があるとの声も聞いております。

この様に、作業要因により腰痛になる業務としては、重量物の挙上、運搬、荷役、介護など、力学的負荷による過酷な肉体労働だけではなく、精神的要因、職場環境などにも深く関連しているものと思います。

今回注目したのは、消防局の救急隊員です。24時間勤務で、特殊な緊急業務に携わり、特に、慎重な取り扱いが欠かせない重量もある人体を相手とする救急隊は、精神的に緊張した中での勤務でもあり、腰痛症を発生しやすい状況にあるものと思います。

平成30年度決算特別委員会で、我が会派より救急活動中の身体的負担の軽減や女性隊員の支援として、作業支援用ロボットスーツを導入した自治体を紹介し、その後、神奈川県海老名市の消防本部へ伺ってきました。

導入したロボットスーツは、体を動かそうとする際、脳から筋肉に伝わる生体電位信号をセンサーが検出し、装着者の意思に従って動作をサポートするもので、重いものを運ぶ際に腰への負担を軽減するそうです。

狭いところでは多少支障があるものの、約3kgあるロボットスーツの重さは特に気にならないようです。装着時間も慣れれば30秒以内でできるとの事で、半数近くの隊員が効果を感じているとお話でした。

本市でも、救急隊員の腰への負担軽減や腰痛予防、更には、男女の体力差の補完による女性隊員の活動推進などの観点から導入を検討すべきと思います。

そこで、海老名市消防本部では、導入にあたり、隊員へのアンケート調査を行った結果、全隊員の58%が過去を含め腰痛の経験があり、同じく53%が腰痛はないが不安があると答えたそうです。

本市でも、まずは救急隊員へ同じようなアンケート調査を実施し、状況を把握してはと思いますが、見解をお伺いします。

（答 弁）

私からは、救急隊員の負担軽減について、本市においても、作業支援用ロボットスーツの導入にあたり、アンケート調査を実施し、救急隊員の腰痛の状況を把握してはどうかとの御質問にお答えいたします。

救急活動は緊急性の高い状況の中、24時間勤務で、慎重な対応が求められる傷病者の処置や搬送を行うなどの特殊性があり、女性の救急隊員も活躍しております。

2 救急隊員の負担軽減について

令和2年12月議会 一般質問（令和2年12月4日（金））	
質問者：公明党 村上 直樹 議員	答弁者：消防局長

本市の救急活動におきましては、作業負担が大きい傷病者を乗せたストレッチャーの上げ下げや、搬送などにつきましては、救急隊員3人の役割分担が決められており、日頃から訓練等を通じて隊員の連携を図っているところでございます。

さらに、救急隊員の負担軽減策として、心肺停止状態などの重篤な傷病者のほか、急な坂道や狭い場所から傷病者を搬送する場合などは、消防隊が救急隊と同時に出動し、救急隊員の支援を行うこととしております。

御指摘の作業支援用ロボットスーツにつきましては、導入した消防本部に聞き取りを行ったところ、女性救急隊員が担架を持ち上げる時や移動させる時に、負担軽減の効果がある一方で、その重量や腰から張り出した形状によりまして、狭い場所などでは活動が制限されるとの意見がございました。

その後、本年11月にも聞き取りを行いました。機器の小型・軽量化や機能に変更はなく、新規導入は1消防本部で、全国726消防本部のうち、3本部のみの導入であり、大きな進展はみられない状況でございます。

御提案のアンケート調査につきましては、令和元年度の定期健康診断の問診票におきまして、「腰や背中痛み」について申告した者は1,010人中103人で10%、このうち救急隊員は206人中29人で14%であり、状況を把握していることから、改めて実施する予定は今のところございません。

いずれにしましても、作業支援用ロボットスーツは、救急隊員の負担軽減につながるものが期待されるため、機器の小型・軽量化や機能の向上、他都市の導入状況につきまして、引き続き注視してまいりたいと考えております。答弁は以上でございます。

（村上議員）

救急隊の件ですけれども、コロナが蔓延するちょうど1年前に、私は海老名市に行ってきたんですね。まだ蔓延する前ですから、今行ったわけではないんですね。

その時に説明して下さった隊員さんが、若い女性だったんですね。女性でもストレッチャーを軽々と持ち上げられるということで、「本当に楽です」と言われていたのですけれども、先ほど局長から答弁があったように、消防隊の方も一緒に出動したりとかですね、そういう連携もとってやられているということで、消防隊・救急隊は普段から体を鍛えているかと思しますので、私もそんなに腰痛で悩まれている方はいないのかなと、10%とか14%とのことでしたから、いないのかなと思ったんですけれども、女性隊員の女性活躍の推進につながるのかなという思いで、今回は提案をさせていただきました。